

NEWS

季刊 * 九大病院ニュース
KYUSHU UNIVERSITY HOSPITAL

vol.4

2006.03

特集

新病院Ⅱ期棟オープン!



基本理念

患者さんに満足され、医療人も満足する医療の提供ができる病院を目指します。

基本理念に基づく実行目標として、

- 1) 地域医療との連携及び地域医療への貢献の推進
 - 2) プライマリ・ケア診療の充実
 - 3) 全人的医療が可能な医療人の養成
 - 4) 専門医療の高度化を目指した医学研究の推進
 - 5) 国際化の推進
- を掲げています。

INDEX / 目次



1. 特集 / 新病院の紹介 P 2 ~ 7
2. 九大病院経営分析レポート P 8
3. 病診連携 P 9
4. コラム P10
5. 人事 P11
6. 九大病院行事案内 / 編集後記 P12

病院長挨拶

水田祥代

このたび、九州大学病院の新病院第Ⅱ期棟が開院を迎えます。

Ⅱ期棟は地上11階地下1階で病棟556床と中央診療部および一部の外来が入り、南棟と呼ばれる第Ⅰ期棟に対して、北棟と呼ばれます。北棟の特徴は、第Ⅰには、これまで別の建物となっていた歯科医療センターが移転し、平成15年に3病院（医科・歯科・別府生医研の附属病院）統合以来、名実ともに統合した病院となります。医科部門と歯科部門が同じ建物で診療することによって、医療設備や人材を共有することができ、より効率的な診療が行えると共に、医科部門と歯科部門の密な連携によって患者さん本意で、かつ全人的な医療を提供することができます。またより先進的医療の研究開発も期待されます。



北棟の2番目の特徴は、内科系の臓器別診療科の他に、複数の診療科が参画し集学的治療を集中的に行うセンターを開設することです。ブレインセンター、ハートセンター、小児医療センターの3つのセンターを設置します。ブレインセンターは我が国の3大疾患の1つである脳血管系の疾患や認知症などの脳神経系疾患に対し、総合的、効率的に診療すること、さらにより高度かつ先進的医療の提供や研究開発を目的として神経内科、脳神経外科および脳血管内科を中心に神経病理学および神経生理学などの基礎医学の成果を活用した総合的・集学的な治療センターとして開設します。ハートセンターはこれも3大疾患の1つである循環器疾患の診療に関連する診療部門・検査部門・病床を集約し、循環器診療をより効率的に行うと共に医療技術の向上や研究開発を計ることを目的として、本院の循環器系の診療科が内科・外科の垣根を越えて集結しセンターを設置します。このセンターでは4月から心臓リハビリテーションも開始いたします。これらブレインセンターやハートセンターはCCC（Critical Care Center）構想の下に関連各科・部門を一箇所に集約し、各診療科の枠を越えてより集中的でかつ集学的な診療を行うと共に、「患者さんを動かさない病院」という九州大学病院としての目標の達成を目指しています。

小児医療センターは小児科・小児外科・小児歯科の医師を中心に小児に関する各科の医師が診療科の枠を越えて結集し、高度先端医療を含む総合的小児医療をめざします。「病院は隔離するところではなく、子ども達が病気と一緒に普通の生活ができるように、安心して過ごせる環境をめざし、病んだ子ども達やその家族が心地よく過ごせる病院にしたい」という私達の想いを、このたび九州大学芸術工学研究院の佐藤優教授を中心としたユーザーサイエンス機構のご協力によって「森のイメージ」で建設していただきました。また、森の動物たちとの楽しい会話が聞こえてくるような待合室や廊下、ブレイルームなどにくわえ、子ども達が新鮮な外の空気も吸えるようにライトコートに庭も作りました。

九州大学病院の新病院建設は歴代の病院長や医学部長をはじめとする関係者の永年にわたる悲願として推移した過去を経て、14年4月の南棟開院に続き、この度の北棟の開院、さらには本年秋からの外来棟の着工が控えておりますが、このような大きな病院再開発をご理解・ご支援いただきました、歴代総長を初めとする九州大学関係はもとより、文部科学省、財政当局、厚生労働省及び自治体をはじめとする関係の方々はこの場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

九州大学病院は、「患者さんやそのご家族に満足され、医療人も満足する医療が提供できる病院」を理念とし、幅広い社会貢献と、次世代の医療を担う人材の育成を目指し、診療、教育、研究、管理運営に全力を尽くしております。

皆さま方の温かいご支援を何卒よろしくお願い申し上げます。

新病院の概要・特色

新病院のフロア案内図

階	南 棟	北 棟
11	- 眼科	- 血液・腫瘍内科 - 免疫・膠原病・感染症内科 - 先端分子・細胞治療科
10	- 整形外科 - リハビリテーション病床	- 胃・高血圧・脳血管内科 - 消化器内科
9	- 上部消化器外科 - 下部消化器外科 - 乳腺・内分泌外科	- 内分泌代謝・糖尿病内科 - 肝臓・脾臓・胆道内科 - 心臓内科
8	- 上部消化器外科 - 下部消化器外科 - 呼吸器外科	- 放射線科 - 呼吸器科
7	- 脳神経外科 - 耳鼻咽喉科	- 神経内科 - 感染症病床 - 顎顔面口腔外科
6	- 産科婦人科 - 泌尿器・副腎・腎移植外科	- 小児医療センター [小児科、小児外科・小腸移植外科]
5	- 周産母子センター (母性胎児部門、新生児部門)	- 小児外来 (小児科、小児外科) - 歯科外来 (小児歯科、顎口腔外科、 顎面口腔外科、全身管理歯科、 矯正歯科、歯科麻酔科)
4	- 麻酔科麻生科 - 腎疾患治療部 - 病理部 - 手術部	- 歯科外来 (口腔総合診療科、歯内治療科、 義歯補綴科、咬合補綴科、 歯周病科、口腔画像診療科)
3	- 手術部 - 集中治療部 (ICU) - 冠動脈疾患治療部 (CCU)	- ハートセンター (心臓血管外科、循環器内科、 血液・腫瘍内科) - 放射線部 (心臓血管造影) ・ R1 病床
2	- 検査部 (検体検査) - 遺伝子・細胞療法部	- プレインセンター - 先端医工学診療部 - 検査部 (検体検査、生理検査) ・ 移植対策室 - 栄養指導室 (入院患者用) ・ 入院受付 - 臨床教育研修センター
1	- 救急部 - リハビリテーション部 - 放射線部 (胸部部、造影撮影、透視撮影、 骨塩定量、CT)	- 放射線部 (血管造影、超音波、MRI、骨造影) - 光学医療診療部 - 歯科受付 - 薬剤部 (歯科)
B1	- 放射線部 (リニアック) - 医療器材サプライセンター (滅菌部門、物品供給管理部門) - 売店	- 医療器材サプライセンター (MEセンター、リネンセンター) - 病理・整安室 - 病態実習部 (附属)

第Ⅱ期
(外棟棟)

ハートセンター

循環器内科 科長 砂川賢二

九大病院ハートセンターは、地域の循環器疾患患者を救命するための基幹センターとして24時間体制で診療にあたるとともに、先端医療の開発とその臨床応用のためのトランスレーショナル・リサーチセンターとして、世界に向かって新しい循環器治療の成果を発信し公共の福祉の増進に貢献することを目的としています。新病院Ⅱ期棟の完成にともない、北棟3階にハートセンター54床（共通病床を含む）が開設されることになりました。これまで、循環器内科と第一内科の循環器部門は東棟3階で、心臓外科は南棟11階で、それぞれ独立して診療を行ってきましたが、ハートセンターとして北棟3階に病床を集約させることで診療部門間の壁を除き、効率的な医療資源の活用と集学的な医療の提供を行うことが可能になります。同時に、心エコー、運動負荷試験などの循環器生理検査部門と心臓カテーテル検査装置（2台）も、北棟3階に移設され、同じフロアにある南棟3階の集中治療部20床、冠動脈疾患治療部10床と有機的に連携しながら、診療を進めていきます。

心臓停止や、胸痛を主訴とする急性冠症候群、急性大動脈解離、大動脈瘤の切迫破裂などの救急疾患への対応、心臓カテーテル検査とその診断に基づいた冠動脈インターベンションおよび外科手術が、ハートセンターでの診療の主体となります。また、関西以西で唯一の心臓移植認定施設として、重症心不全に対する心臓移植を含めたあらゆる治療法（補助心臓、両心室ペースキングなど）を提供し、重症心不全患者の救命にあたります。さらに、難治性の致死性不整脈に対して、カテーテルアブレーション治療や植え込み型除細動器の装着を行います。また、トランスレーショナル・リサーチセンターとして、遺伝子治療、細胞治療、医工学を用いた難治性疾患の新たな治療の開発を精力的に進めていきます。スタッフ一同精進してまいりますので、よろしくお願い申し上げます。



ハートセンター受付

ブレインセンター

神経内科 科長 吉良潤一

九大病院Ⅱ期棟の2階に新しいセンターとしてブレインセンターが設置されました。超高齢社会の到来により、認知症や脳卒中をはじめとして脳疾患の重要性は増すばかりです。これらは難治性の疾患も多く、早期診断・早期治療開始が社会的にも強く求められています。九大病院には脳疾患に関連した多くの診療科がありますが、これまでは集約的な診療は行われていない状況でした。このため、新病院開設を契機にブレインセンターを設置し、脳疾患関連各科のマンパワーを集約することで脳疾患を総合的・効率的に診療することを目指すこととなりました。ブレインセンター内の検査部門では、脳疾患の脳機能・脳循環評価を総合的に実施します。地域医療機関からの脳機能・脳循環評価依頼を積極的に受け入れ、脳神経疾患・精神疾患に関する地域医療連携のセンターとして機能することを目指しています。同時にトランスレーショナルリサーチの核としても機能することを期待しています。当センターには、臨床神経心理検査室、誘発電位・筋電図・末梢神経伝導検査室、神経超音波・脳循環検査室、神経磁気検査室、高次脳機能検査室等が設置されています。外来および入院患者さんは当ブレインセンターを受診することであちこち移動することなく、総合的な脳機能・脳循環評価を受けられます。またブレインセンター検査部門に隣接して難病情報センター、認知症情報センターが設置されています。難病情報センターでは、福岡県重症神経難病ネットワークの難病医療専門員が、神経難病をはじめとする難病の情報提供と療養相談、入院先の紹介を実施します。また認知症情報センターでは、認知症患者、家族への面談・認知症の情報提供を行います。このような総合的なブレインセンターは西日本の大学病院では、初めての試みであり、広く患者を受け入れることをめざしております。脳卒中、認知症、頭部外傷をはじめとする様々な原因による高次脳機能障害、神経難病、精神疾患等が広く対象になります。患者紹介や共同臨床試験を含め、様々な形での連携とご指導をお願いいたします。



ブレインセンター入口

小児医療センター

小児科 科長 原 寿郎

この度、新病院北棟6階に九州・中四国の大学では初めての、小児患者に優しく、さらに高度先進医療を進めることが可能な“小児医療センター”が設置されました。同センターはワンフロア化による小児医療の質の向上および医療資源のソフト、ハード両面での効率的運用を計ることを目的に、新病院Ⅱ期棟開設に伴い2006年4月よりオープンします。本センターは、従来診療科ごとに病院内に散在していた小児病床を集中的に配置し、小児を専門とする医師・看護婦などのスタッフと各診療領域の専門家の協力による集学的診療を行う総合的小児医療部門として位置づけられます。北棟6階の全フロアに72床の病床を有し、小児科病床、小児外科病床、各専門外科を対象とした外科系小児共通病床、および児童精神疾患の母子入院が可能な内科系小児共通病床で構成され、臨床科を超えたチーム医療の実現を目指しています。さらに、“ユーザー・サイエンス”の考えを取り入れた病棟デザイン、プレイルーム、ライトコート（中庭）の設置、院内学級の併設、病棟保育士の配置などにより、入院中の子どもたちとそのご家族のアメニティが重視され、QOLの向上が計られるように配慮されています。また医師や看護婦などのコマディカルが広範囲にわたる小児疾患を包括的に経験することが可能であり、充実した小児医療の教育と研修をより効率的に提供することのできる場としても期待されています。従って、初期および後期研修中の医師やコマディカルの皆様には、ぜひ経験していただきたいセンターです。

当センターでは、小児高度先進医療の拠点として、造血幹細胞移植や臓器移植などの移植医療を中心とした専門性の高い医学・医療を担いさらに発展させることはもちろんのこと、小児救急医療の後方支援、子どものこころと発達外来からの発達遅滞や児童・周産期精神疾患の精査治療、小児歯科との医療連携など、幅広い領域をカバーしながら、南棟5階に設置されている周産母子センターや北棟5階に同時にオープンした小児系外来（小児科・小児外科・小児歯科）と合わせて、西日本における小児医療の総合的拠点としての役割を果たしたいと考えています。先生方には、ますますのご支援をお願いいたしますとともに、多くの患者さんをご紹介いただきますようお願い申し上げます。



小児医療センター通路



小児外来診療室

先端医工学診療部

先端医工学診療部 部長 橋爪 誠

百年を超える九州大学病院歴史の中で最も新しい診療部門として2003年3月に設立された本先端医工学診療部は、研究開発・教育訓練・臨床応用の3つを柱とし、医工連携と産学連携を強化して、国内外の研究者や企業とネットワークを形成し、新しい医療の創出に全力をそそいでいます。

臨床応用

臨床応用の活動は、高度先進医療をより早く多くの患者さんに提供できるようにすることです。特に低侵襲治療機器の臨床研究や臨床導入に力点を置いています。侵襲の少ない手術支援ロボットの導入もその一つです。メリットとして、安全かつ正確な手術が行える、術創が小さく、回復がはやい。また、社会復帰もはやい。長時間の手術による医師の疲労が少なく、遠隔診療が可能となる、などがあります。既に手術支援ロボットのda Vinciを設置しており、診療各科と協力して、ロボット手術の適応拡大を計りたいと考えています。

教育研究

教育訓練としては、低侵襲治療を担う医師の訓練や、医学部学生および研究者の教育の場として、内視鏡外科手術およびロボット手術トレーニングセンターを設立しました。これまでに当トレーニングセンターにおいて国内外から300名以上の医師・研究者が内視鏡外科手術およびロボット手術の訓練を受けています。学際的研究や、先端融合型研究の必要性が叫ばれる中、本施設は、企業の研究者や異分野の学生および研究者の教育の場としても活用されています。

研究開発

研究開発の活動としては、国内外の企業や、異分野の多くの研究機関の研究者達との学際的研究を活発に行っています。診断と治療を直結した医療の推進のため臨床用と実験用のOpen MRI各一機を導入し、現在は肝臓の焼灼治療に成果をあげていますが、同時にOpen MRI環境下で動作可能な小型ロボティクスシステムも開発しています。また将来的にアジア、さらには世界の先端医療拠点を目指すべく、昨年からは遠隔医療に力を注いでおり、平成17年3月にはソウルの漢陽大学と、平成18年1月にはバンコクのチュラロンコン大学とをインターネットで結び、遠隔ロボット手術の実験に成功しました(図1)。



九大・チュラロンコン大学(タイ)間のロボット手術実験のポスター

無菌治療室

免疫・膠原病・感染症内科 科長 原田実根
血液・腫瘍内科

人間の体には無数の細菌および真菌がすみついています。また、私たちのまわりの環境にも無数の細菌と真菌が存在しています。健康な人間は、これらの微生物が体の中にはいり病気を起こすことを防ぐ免疫が働き、病気にかかりません。

しかし、白血病などの病気の患者さん、骨髄移植などの造血幹細胞移植を受ける患者さん、などはこの免疫の力が低下し、重大な事態、感染症をおこすことがあります。

免疫という抵抗力の弱った患者さんを感染症から護るためには、細菌と真菌などの微生物に接触する機会を出来るだけ少なくする必要があります。

北棟11階、無菌治療室は、超高性能フィルター(High Efficiency Particulate Air filter: HEPA filter)という空調設備を用いて、病棟全体の空気がクラス1万以下*という高い清浄度を維持しており、肺アスペルギルス症などの感染症が減少することが期待されます。無菌水というきれいな水も常時供給されます。さらに本病棟は全室個室となっており、患者さんの状態に応じて迅速に治療を行うことが可能になります。無菌治療室内は、このような抵抗力の減少した患者さんを専門に治療する医師および看護婦などが常駐して治療にあたります。

病床数は32床あり、西日本でも最大規模の無菌治療室です。本病棟の開設により、従来、無菌ベッドの空待ちのため、移植時期を遅らせていた患者さん達に最速の時期に移植を行うことが出来るようになります。

北棟11階 無菌治療室は、造血幹細胞移植、高度の骨髄抑制が予想される癌化学療法を受けている、遺伝子細胞治療、など最先端の治療を必要としている患者さんに、より清浄な環境を提供し、合併症無く治療を遂行するための病棟です。

* NASA 分類: アメリカ航空宇宙局(NASA)による分類で、1立方フィート中に存在する0.5μm以上の塵埃(微粒子)の数。クラス10000とはこの微粒子数が1万個以下の意。



無菌治療室入口

サプライセンターの紹介

サプライセンター長 内藤誠二

本院の物品管理は、従来各部署に任されていたが、これを一元化し効率的に管理運用しようという目的で、平成10年1月、医療器材サプライセンター（滅菌部門）、物品供給センター、MEセンター、リネンセンター、ベッドセンターの5部門からなるサプライセンターを新病院の地下1階に設置することが決まりました。

この5部門のうち、医療器材サプライセンター（滅菌部門）と物品供給センターは平成14年3月 新病院I期棟の完成に伴い、南棟地下1階に移転し、稼働開始致しました。医療器材サプライセンター（滅菌部門）では、従来各部署で行っていた一次洗浄を一括して行なうこととし、その対象部署も外来・病棟に加えて手術部にまで拡大しました。手術部の回収・供給は、無人搬送車で行い滅菌後自動倉庫に保管するという最新のシステムを導入して、稼働しています。新病院のII期棟開院後は歯科器材の洗浄滅菌作業も行なっていく予定です。また、物品供給につきましては、従来は各部署からコンピューター発注し、現場へ業者が納入するシステムがとられていましたが、極めて非効率的でした。物品供給センターではこの旧来のシステムを廃止して、医科・歯科合同でSPD（Supply Processing Distribution）化による物品の定数配置による安定供給を開始しました。

MEセンターは、平成14年5月の新病院I期棟開院に伴って新設され、当初は貸出機器8品目からスタートしましたが、現在は15品目にまで拡大しています。従来これらの機器のメンテナンスはすべて関係業者に依頼していましたが、本センター開設後はできるだけセンター内でメンテナンスを行うこととし、必要な修理費も一括交渉することで、経費の節減に努めています。新病院のII期棟完成に伴って、MEセンターは3月11日（土）に、北棟地下1階に移転予定です。

リネンセンターも新病院のII期棟開院に伴い、3月25日（土）に北棟地下1階に移転します。ベッドセンターにつきましては、現在はまだ明確な作業開始時期は決まっていますが、将来はベッドの洗浄、供給を一括して行なうことになると思います。

サプライセンターは直接の患者さんとの関わりは少ないですが、患者様に良い医療を提供するための支えの業務を担う重要な部署と認識いたしております。どの部署も、清潔・不潔が交差することなくワンウェイで作業がスムーズに動くように工夫し、より良い物品の管理、供給を目指して努力していきたいと思っておりますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願い致します。



自動洗浄システム



無人搬送車

病態栄養部（厨房）

厨房は北棟地下1階にあり、おいしい食事提供はもちろん安全で衛生的な病院給食を出すことを目標にしています。そのため危害分析重要管理方式（HACCP）を基本に食材の流れをはっきりさせる効率的な給食業務が出来るように調理機器を配列しています。

ここで毎食1000食程度を調理しており、その種類は一般常食が6割、ミキサー食や刻み食などの軟食が1割、特別治療食が3割です。特別治療食は治療方針によってカロリー別に分けられ、糖尿病食が8種類、肥満症食が3種類、高血圧症食が5種類、高脂血症食が6種類、腎臓病食が8種類といったように細分化されています。病院食は患者のみなさんの健康増進を図り、治療食でもあるので、おいしく食べていただけるよう選択メニューサービスなども実施しています。一回に8台のガス自動炊飯器でお米120キログラム（二俵）を炊き出し、副食づくりをしますので、食事づくりは大変です。

こうした給食業務の、冷蔵、加熱、消毒など、あらゆる場面は、モニタリングシステムにより計測、表示され、事務室で衛生管理、記録しています。

調理された食事は、自走式温冷配膳車32台などでそれぞれの病棟、患者さんに配られます。

食事時間は、朝食が8時、昼食が正午、夕食が6時で、職員配置も常時50人程度が勤務しています。職員たちは「食事の面からお役に立つよう適時、適温で提供し、一日も早く患者さんが治療回復されるよう、毎日の病院給食業務に努めたい」と言っています。（H）



自動炊飯器から厨房を望む

歯科部門

九州大学病院 歯科担当 副院長 古谷野 潔

このたびの新病院II期棟（北棟）の完成に伴い、歯科部門は、新病院II期棟の4、5階に外来が、7階に病棟が移動します。そして、平成18年4月より、新病院での診療をスタートする予定です。この移動が完了すると名実ともに歯科部門が九大病院の一員となり、さらに統合メリットを発揮して発展できるものと考えています。なお、III期棟（外来棟）完成まではII期棟1階に歯科部門専用の外来患者受付を設置して対応する予定です。

II期棟移転後は、従来から歯病が担ってきた診療はもちろんですが、さらに九大病院の入院患者さんの歯科的な問題を改善できるものと思っています。医・歯での診療の連携は統合の大きな目的のひとつです。したがって、その他にも医科部門入院患者に対する専門的口腔ケア（プロフェッショナル・オーラル・ヘルス・ケア：POHC）を提供していきます。具体的には以下のような事例が考えられます。

1. ICUにおけるPOHC

- ・呼吸器感染症起炎菌を口腔ケアにより減少させ、人工呼吸器関連肺炎を予防する。

2. 急性期の脳血管障害者のPOHC

- ・口腔機能の低下による口腔内の汚染、それに起因する誤嚥性肺炎の予防、および口腔機能の低下を回避する目的で、口腔リハビリテーションを行う。

3. 心臓手術予定患者のPOHC

- ・口腔内の炎症性病変に起因する菌血症、および感染性心内膜炎を予防する。

4. 糖尿病患者のPOHC

- ・血糖コントロール不良症例における、口腔乾燥症、歯肉炎、歯周炎、多発性膿腫、易感染状態、口腔内の創傷治癒不全の予防・管理を行う。

5. 口腔・中咽頭痛の患者のPOHC

- ・治療前中後の諸問題の予防、処置、口腔リハビリテーション指導を行う。
- ・経過不良が予想される歯は放射線治療前に抜歯を施行する（放射線骨髄炎の予防）。
- ・鋭縁のある義歯等の除去、調整および再製、齲蝕治療、歯周治療を可及的に施行する。
- ・治療期（放射線療法、化学療法、手術直後）の口腔ケアを行う。

6. 骨髄移植患者のPOHC

- ・移植予定患者に対し無菌室入室前の可能な限り早期に、歯科外来で口腔内感染源のスクリーニング、治療を行う。

また、摂食・嚥下障害の治療は協力体制が出来上がり、すでに実践されていますし、睡眠時無呼吸症候群のオーラルアプライアンスによる治療もできます。今後はこのような協力体制をさらに充実させ、地域の関連病院より、歯や口腔に関する問題のケアのために九大病院に（医科的治療は紹介元の病院でも対応可能な）患者を送っていただける、すなわち歯科を基盤とした病院連携を構築したいと思っています。そして、九大病院の歯科部門の機能を新たに地域医療の中に提供できればと思っています。皆さんも是非歯科部門をご活用ください。歯科部門の何科に紹介したらよいのか？などと悩む必要はありません。九大病院歯科宛で結構です。



診療科受付



診療ブースが並んだ診療室内



診療ブース内



小児歯科受付



小児歯科診療室内

患者逆紹介率 60%を超える

平成16年4月の独法化に伴い、より一層の経営基盤の確立が要求されるようになり、本院も全国の大学病院と同様に国立大学病院管理会計システム（HOMAS）を導入しました。現在はまだ試行段階ですが、部門別原価計算や患者別原価計算などが一日も早く本稼働できるように準備しているところです。

平成17年度12月までの診療実績において、患者数では16年度の同期間と比較して入院では102.0%、外来では105.9%と共に昨年度を上回っています。

1日1人あたりの診療点数も、入院が対16年度実績比104.9%、外来106.4%と共に上回っています。

紹介率は8月に一時下がりはしたものの、11月には再び70%となり、平均でも68.0%と16年度の65.7%を上回っています。逆紹介率は5月以降しばらくは50%を下回っておりましたが、10月以降再上昇し11月と12月は60%を超えました。これも地域の医療機関の皆さまとの連携の成果と感謝しております。

経営管理室 経営分析係長 山本健治



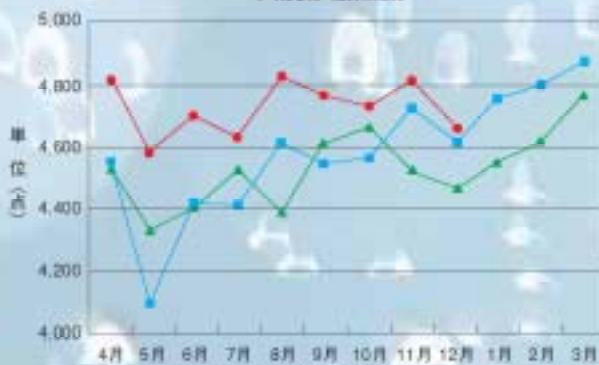
入院患者数



外来患者数



入院診療点数



外来診療点数



患者紹介率



患者逆紹介率



病診・病病連携を念頭に

特別医療法人 栄光会 理事長 藤江良郎

特別医療法人 栄光会 栄光病院

- ① 所在地 糟屋郡志免町大字別府723
- ② 理事長 藤江 良郎 院長 下稲葉 康之
- ③ スタッフ（医師21名、看護師127名、放射線技師4名、事務員45名など総員272名）
- ④ 病床数 ホスピス50床、一般病棟58床、特殊疾患療養病棟32床、
回復期リハビリ病棟38床 計178床
- ⑤ 診療科目：内科・外科・泌尿器科・循環器科・消化器科・肛門科・リハビリテーション科
麻酔科・呼吸器科・心療内科・神経内科・整形外科・ペインクリニック
- ⑥ 理念：（患者様も医療スタッフも同時に）「癒し癒される医療」



栄光病院は平成17年11月13日、病院を現在地に新築移転し、同時に以前の病院を亀山クリニックとしてスタートさせました。

当院はキリスト教主義を基礎に全人的医療を目指しております。そして亀山クリニックだけでなく全病院を開放型病院として地域の75診療所の先生や大学病院との連携も念頭におきながら、病院のあり方や、その機能分担を考えております。

亀山クリニックは、生まれてから死ぬまでの生活習慣病・成人病（糖尿病・高血圧症・心臓病・心療内科・認知症その他）・健康管理・在宅医療も含めて、慢性疾患を中心に生活相談・健康相談にあたる「総合診療」を実施しています。

当院は、急性期疾患・重症疾患を対象に、24時間の救急医療体制をとっており、入院・外来を問わずに受け付けます。外来は専門外来・予約外来とし、亀山クリニックの外来と区別した、より高度な検査・診療そして入院という機能を重視しています。

特に、福岡大学病院・熊本大学医学部附属病院と連携を緊密にしながら、協力型臨床研修病院として参加いたしておりますが、九州大学病院とも同様に連携を強化し、患者様にとって、もっとも最善の治療を心がけています。さらに、名実ともに日本一となった緩和ケア病棟50床を有し、また神経難病センターとして機能する特殊疾患療養病棟32床も新設して、医師の卒後臨床研修の場としても活用していただきたいと念じております。



栄光病院全景

地域医療連携センターだより

地域医療連携センター

メディカルソーシャルワーカー 若田 英樹

患者様相談室「医療相談部門」について

現在地域医療連携センターの一部門である患者様相談室において、2名のメディカルソーシャルワーカー（以下MSW）が患者様からの相談等に対応しております。これらは単に医療費や制度に関する相談である場合もありますが、医療に関する相談、具体的には自分の症状に関する相談や、また治療内容に関する相談もあります。しかしながら私どもMSWは事務職であり、このような医療的な相談にはお答えできません。

そこで、昨年末地域医療連携センターに「医療相談部門」を設置し、相談内容が医療に関する内容の場合は、医師の助言を元に対応することとなりました。助言を求める医師は地域医療連携センターを兼務している内科、外科、精神科、歯科各1名の医師を相談役とし、医療相談にも対応できる組織作りを行いました。医師は、私ども事務職と異なり外来や病棟での診療を中心に行っているため、患者様が「医療相談」を目的としてお越し頂いたとしても、その場に担当の医師が来て質問にお答えすることはできません。そのため私どもが相談内容を一旦お預かりし、担当の医師に相談したのち、速やかに回答しています。

患者様相談室では、患者様がお越しいただいた場合、その場で回答できる内容はその場で対応できるように心掛けておりますが、医療相談に限らず、その他の相談に関しても後日回答となる場合があります。これは相談内容が複雑である場合、問題を整理し関係機関等から確実な情報を得た後、患者様が納得できる情報を提供したいと考えているためです。誤った情報は患者様を混乱させるだけでなく、様々な申請等の手続きを遅らせ、金銭的、肉体的、精神的負担を強いてしまう可能性もあります。

私どもは患者様への応対に最善を尽くしたいと考えております。皆様方のご理解、ご協力の程宜しくお願い申し上げます。



医療相談部門スタッフ



相談室室内

今後の歯科医療と県歯科医師会の役割

福岡県歯科医師会 会長 秋山 治夫



九州大学病院地区全体が見渡せる中心部に新病院棟が完成し歯科部門も移転されると聞いております。この季節、構内には桜が美しく咲き、祝いの言葉に花が添えられることは喜ばしいことです。また、建物周囲を取り巻く通りには、百年来の伝統から名が付けられ、九大病院の歴史とその重みを感じるところです。この新病院は、最新の建造物であり、特色ある施設が多く組み込まれ先進医療の発展に寄与されることを願っております。

現在、歯科は医療の変革が進み、遺伝子レベルでの最新の再生医療が議論される時代が到来しております。歯科も言い換えれば再生医学の一端を担っている分野であり、今後このような医学・医療の進歩がもたらす功績は、将来の医療保険制度を大きく塗り替える可能性があると思われれます。今のところ医療保険制度改革は財政を中心とした考えで進んでおりますが、本質は医学医療の成果をどのように人々に役立てるかであり、収支の概況を合わせるよりも、むしろ大きな課題になると考えております。

また、医療を支える柱としてバイオエシックスが注目を集めており、患者のニーズの多様化や高齢化時代等に伴い、これからは重要なキーワードになってくるものと思われれます。

一方、我々は医療システムの中でも医療安全管理体制の質の向上が大切と考えております。大学病院で発展しているリスクマネジメントシステムの運用を参考に各診療所レベルで活かしながら、また同時に病診連携を最大限に活用していく必要があります。今後も大学診療所と機能分化、分担を明確にし、切磋琢磨し地域住民から信頼される医療供給体制の確保・向上を、目指していきたいと思います。

「新病院に期待する；誰が？」

大学院医学研究院医療システム学 教授 信友 浩一



国立がんセンターのような「ナショナルセンター」を、新たに発足させるためのプロジェクト研究を引き受けたことがあります（平成16年度）。まずわたしが行ったことは、その「ナショナルセンター」が担う領域のステークホルダー（利害関係者）は誰であるかをレビューすることでした。医師、患者までは誰でも思いつくステークホルダーですが、その他には？ 看護職、研究者、関連領域企業、同研究者・・・他には？ 国直轄で運営する「ナショナルセンター」であればタックスペイヤー？ このレビュー作業を、前記した方々にご足労いただき、始めたところ面白い反応が出てきました。「あいつもステークホルダーではないのか？」「では、そいつを呼ぼうよ」「あるいは彼をステークホルダーにしたらどうだろうか！？」などなど、新「ナショナルセンター」のファンクラブ？が自然発生的に出てくるのが感じられました。さらに、既存のステークホルダーからは「あのことが障害になって新生体材料づくりが遅れた！」など過去の対ステークホルダーへの期待・不満・失望も自然に語られることも度々ありました。そのファンクラブのなかには、なんと財界も入って来ましたが、正直に期待・不満・要望を提示されたのには少なからず驚いてしまいました。

私が、このプロジェクト研究で準備しましたのは、①ステークホルダーに声を掛けた事、②その方々に着席していただくラウンドテーブルを設けた事、③対ステークホルダーを突つくと発言を許さなかった事、だけです。

「ナショナルセンター」を「九大病院」と置き換えることが可能だと思われる方がおられるとしたら、まずラウンドテーブルを設定し、そこでのおしゃべりを楽しんでください。付加的に「新病院に期待する」本質が浮かび上がってくるでしょう。



内分泌代謝・糖尿病内科
肝臓・膵臓・胆道内科 教授(科長)になった **高柳涼一**さん

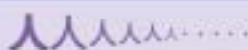


老年医学を九州大に開講し、初代教授として6年間、基礎づくりをした。03年に福岡で開かれた日本医学会総会を幹事長として99年から取り組み成功させた。これらの仕事ぶりが認められて平成18年1月に伝統の第三内科教授になった。もともとが内分泌が専門分野で、代謝性疾患や骨粗鬆症などを研究対象にしている。

「三内科という大所帯をいかにまとめるか、毎日の臨床を効率、効果的にやっていくかが課題」で、伝統と歴史の三内科を「内分泌、代謝と肝臓・膵臓領域の研究を充実発展させ、特に若手研究者を育てる」のが目標という。「老年病は生活習慣病と加齢からくる疾病の治療に尽きるが、少子、高齢化時代では医学、医療の最大のターゲットであり、取り組むなら本腰を入れて人や設備を投入する必要がある」と力説する。

趣味はパソコンいじり。簡単な修理ならおてのものという。人の意見は良く聞か「家庭ではワンマンといわれます」と笑う。75年九州大医学部卒。福岡市早良区に祥子夫人と大学二年生の長男と暮らす。長女は今春製薬会社に就職して独立する。56歳。(H)

※第三内科は平成18年4月から内分泌代謝・糖尿病内科、肝臓・膵臓・胆道内科になります。



小児外科 教授(科長)になった **田口智章**さん



平成18年1月に国立大で全国最初(昭和54年)に開講した小児外科の第三代教授になった。新生児から16歳までの外科治療が必要な子どもたちが対象になり「子供を安心して任せられる外科医」を目標にしている。九大病院には89年に妊婦と新生児対象の周産母子センターが設立され(新生児外科6床)、今回新病院二期工事が完成して小児医療センターが発足する。出生率は低下しているが、新生児の外科手術は増えており、死亡率は10%以下という成績を上げている。小児の肝臓移植は31例(九大全体210例)を数え、生存率90%という好成績を上げている。次の目標は「免疫反応の克服が問題の小腸移植に取り組みたい」。全国で8例が実施されており、九大病院も脳死小腸移植の指定施設になっている。また、「小児の神経芽細胞腫など固形悪性腫瘍の集学的治療や腹腔鏡手術にも力をいれたい」。

趣味は山登り。南北アルプスをはじめ祖母、頬、大崩なども走破した。「暇があったらぜひ近郊の山に登りたい」という。大分県出身。上野ヶ丘高から九州大医学部卒。家庭は典子夫人と一男(中一)一女(小五)。福岡市早良区。51歳。(H)



整形外科
藤原佑介
看護師

南10階病棟にて勤務を開始して早いもので1年が経過しようとしています。入職当時は右も左もわからない状態でしたが諸先輩方のおかげで充実した毎日を送ることができています。今年が2年目となりますが、初心を忘れず謙虚な姿勢で看護師をはじめとしたスタッフはもとより、患者様からも学んでいきたいと思っております。多忙な毎日ですが、心の余裕を持つことを目標に今後とも精進していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。



手術部
高橋 瞬
臨床工学技士

平成17年の5月より臨床工学技士として働いております。仕事の内容は、主に生命維持管理装置やME機器の操作及び、保守点検です。一つのミスも許されない臨床の現場で、臨床工学技士の先輩方や他の医療スタッフの皆様方に助けていただきながら、忙しくも充実した毎日を送っています。一日でも早く一人前の臨床工学技士になれるよう努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。



放射線障害防止検査室
西山祐子
臨床検査技師

平成17年11月1日より、放射線障害防止検査室に臨床検査技師として採用となりました西山祐子と申します。以前企業に就職しておりました私にとって、検査室での従事は大変新鮮で、充実した日々を送ることができています。まだまだ分からない事も多く、皆さんにご迷惑をお掛けする事もあると思いますが、周りの方々から信頼される検査技師になれるよう一生懸命頑張ります。今後とも宜しくお願い致します。



リハビリテーション部
藤吉大輔
理学療法士

平成18年1月1日付けで、医療技術部(リハビリ部門)に配属となりました理学療法士の藤吉大輔と申します。前職場で約5年間勤務してまいりましたが、当院が超急性期ということもあって入退院の流れの早さに驚いている毎日です。身体に障害のある患者様に対し失われた能力を向上させると同時に、残された機能を最大限に発揮させられるよう少しでも手助けができればと思っております。初心に帰って頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

九大病院行事案内

平成18年4月1日～平成18年6月30日

- 行事名：MOC会 医療コンフリクト・マネジメント
期間：平成18年4月10日（月）
場所：三鷹ホール 博多区綱場町2-2 福岡第1ビル7F
問合せ先：九大病院整形外科医局長室
電話：092-642-5488
- 行事名：福岡地区心身医学研究会 PSM アーベント
期間：平成18年4月13日（木）
場所：福岡市アステラス製薬福岡支店 会議室
問合せ先：九大病院心療内科病棟医長
電話：092-642-5318
- 行事名：福岡地区心身医学研究会 PSM アーベント
期間：平成18年5月11日（木）
場所：福岡市アステラス製薬福岡支店 会議室
問合せ先：九大病院心療内科病棟医長
電話：092-642-5318
- 行事名：第45回日本生体医工学会大会
期間：平成18年5月15日（月）から17日（水）
場所：福岡国際会議場
問合せ先：九大大学院医学研究院循環器内科学
電話：092-642-5360
- 行事名：日本ドライマウス研究会主催
ドライマウス福岡サテライト講習会
期間：平成18年5月21日（日）
場所：九州大学医学部百年講堂
問合せ先：九大病院顎顔面口腔外科 中村誠司
092-642-6381
申込み先：ドライマウス講習会事務局
電話：03-3869-6752
FAX番号：03-3869-6748
- 行事名：MOC会 骨・軟部腫瘍
期間：平成18年5月29日（月）
場所：三鷹ホール 博多区綱場町2-2 福岡第1ビル7F
問合せ先：九大病院整形外科医局長室
電話：092-642-5488
- 行事名：MOC会 腰椎椎間板の変性抑制は可能か？
臨床的、基礎的検討
期間：平成18年6月26日（月）
場所：三鷹ホール 博多区綱場町2-2 福岡第1ビル7F
問合せ先：九大病院整形外科医局長室
電話：092-642-5488

九大病院散歩



整形外科医長より第一外科、合同内科方面を望む



現在の様子

旧外科棟、基礎研究A棟付近

上の写真は、1936（昭和11）年11月、九州帝国大学創立25周年を記念して作製された絵葉書（原版）の中の1枚である。医学部附属病院は1925（大正14）年に2度の大火にあい、多くの建物が消失した。しかし、昭和に入ると復旧を急ぎ、先ず1931（昭和6）年4月には第一～第三内科のいわゆる合同内科棟（上写真の左上）が竣工、次いで1933年1月には第一外科棟（上写真の右端）が竣工した。旧合同内科棟は医学部基礎研究A棟として、また旧第一外科棟はその一部が九大生協医系購買部等として現存している。下の写真で、左半分がシートに覆われているのが基礎研究A棟（現在補修中）、右端に写るのが旧外科棟である。近辺に生協食堂（写真中央の白い建物）、総合研究棟（写真左上端）等が建ち、まわりの様子は大きく変貌している。

（九州大学大学文書館 教授 折田悦郎）

編集後記

本号はいよいよ開院を間近にひかえた新病院Ⅱ期棟の特集号となっています。新病院での取り組みの中で重要ないくつかについて紹介させていただいていますが、特色のひとつは、診療にセンター方式を積極的に取り入れ、診療科の垣根を払った患者中心疾患中心の集中的診療を目指していることが挙げられると思います。今後さらに、「患者を動かさない、医療スタッフが患者のもとへ向かう」の理念実現へ向け努力したいと考えております。また、九大病院の高度な検査診断施設を生かして、今後は疾病予防つまり「健康の維持と増進」にも力を注ぐという方針のもと、先進予防医療センターの設立に向け準備も着々と進んでおります。来るべきこの先進予防医療センターと今回新設された各種治療センターを有機的に結合させて、一層地域医療にも貢献して行きたいと考えています。そのためには、地域の医療機関との連携をますます深めていかなければなりません。今後も更なるご協力とご助言をお願いいたします。（康）

表紙説明：4月にオープンする九州大学病院の新病院Ⅱ期棟（後ろの建物）

〈九大病院ホームページ〉 <http://www.med.kyushu-u.ac.jp/hosp/>

企画・発行／九州大学病院広報委員会
福岡県福岡市東区馬出3-1-1 TEL092-641-1151代

ご意見があれば広報室まで電話（092-642-5205）、
FAX（092-642-5008）をお寄せ下さい。

R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

平成18年3月発行